

# 足利市民憲章

昭和45年5月5日制定

私たちは、自然にめぐまれ、はるかなる昔から文化がひらけていた学問のまち、産業のまち足利市を心から愛し、より美しく、より豊かにするためにこの憲章を定めます。

## 1 足利市は日本最古の学校のあるまちです。

教養を深め、文化のかおり高いまちをつくり、すぐれた伝統をさらに発展させましょう。

## 1 足利市は美しいまちです。

めぐまれた自然を愛し、清潔で健康なまちをつくりましょう。

## 1 足利市は善意のまちです。

理解と信頼をもって、みんなのしあわせのためにお互いに助け合いましょう。

## 1 足利市は希望にみちたまちです。

明るい家庭をつくり、次代をになうこどもに誇りと希望をもたせましょう。

## 1 足利市は伸びゆくまちです。

しごとを愛し、みんなの創意で時代の進歩に調和した活気のあるまちをつくりましょう。

## II 市章



### 市章

大正3年(1914)1月14日制定の町章，在大正10年(1921)1月1日建市后被指定为市章。日本最古の書籍《古事記》中出现的倭建命的儿子足鏡別王据说曾治理过足利地区，因此以古鏡神鏡为轮廓，在中央配以一“足”字。

大正3年1月14日、町章として制定したものを大正10年1月1日の市制施行後も市章としています。

日本最古の書物『古事記』に出てくる倭建命(やまとたけるのみこと)の御子(みこ)、足鏡別王(あしかがみわけのきみ)が足利の地を治めたという言い伝えから、古鏡(神鏡)を輪郭にして中央に『足』を配しています。

### City Symbol

The town symbol established on 14 January 1914 was retained as the city symbol when Ashikaga was made into a city on 1 January 1921.

The city symbol comprises the outline of an old mirror with legs, ashi supporting it in the center. The ashi part of the symbol derives from a legend contained in the Kojiki, Japan's oldest book, in which ASHIKAGAMIWAKENOKIMI, one of Yamato Takerunomikoto's children, ruled over the Ashikaga region.

## 市歌

# われらのまちに

作詞 清水次郎

補作詞 市民に親しまれる歌制定委員会

作曲 八洲秀章

平成23年4月1日制定

Moderato

さ わ や か な ひ か り の い と - に お  
ら れ ゆ く み ど り の よ あ - け あ  
し - か が の か ぜ あ た ら し - く あ  
す に む け ひ ろ が る - ゆ め - が い ま  
ひ ら く い ま ひ ら く わ れ ら の ま ち に

- 1 さわやかな 光の糸に  
織られゆく みどりの夜明け  
足利の 風あたらしく  
明日に向け ひろがる夢が  
いまひらく いまひらく  
われらのまちに
- 2 励みゆく ころもにかおり  
競い咲く 文化の花よ  
渡良瀬の 川いきいきと  
あふれわく ちからも若く  
いまはずむ いまはずむ  
われらのまちに
- 3 <sup>いわれ</sup>由緒ある 史跡のさとに  
よろこびて 住みゆく誇り  
大日の 塔なつかしく  
すこやかな ぐらしの歌が  
いまひびく いまひびく  
われらのまちに

## 旧市歌

### 足利市歌

作詞 尾上柴舟

作曲 平岡均之

昭和10年11月16日制定

- 1 至聖の殿堂 稀世の古典  
戦塵揚れど 学徒は集ひ  
昔は東国 教化の巷  
科学の精粹 時代の思潮  
機械に意匠に 表現しつつ  
今しもわが国 機織の都  
足利 足利 わが足利市

- 2 守りて聳つ 両崖山や  
抱きて流る 渡良瀬川や  
自然の恵の 集まるところ  
煤煙み空を おほひはずれど  
曇らぬ心に 親しみ交し  
共存共栄 忘れじわれら  
足利 足利 わが足利市

市歌は、昭和9年に昭和天皇が本市へ行幸されたのを記念し、翌年に旧市歌『足利市歌』が制定されました。市制60周年(昭和57年)の際、歌詞の一部が時代にそぐわないなどの意見があり、『市民に親しまれる歌の検討専門委員会』が発足し、市歌の再検討がなされた結果、『足利市歌』が存続となった一方、新たに市民愛唱歌『われらのまちに』が制定されました。

市民手作りの歌を目指した市民愛唱歌は、歌詞および曲を公募とし、計115編もの応募の中から清水次郎氏の歌詞『われらのまちに』が採用されました。

同歌はその後、市民愛唱歌として30年間親しまれ、市民の間にも浸透していたことから、市制90周年を迎えた平成23年4月1日より新市歌となりました。